

平城宮跡歴史公園南側地区の整備に関する検討委員会（第1回）

議事概要

日 時：令和3年12月9日（木） 10：00～12：00

場 所：朱雀門ひろば 天平みはらし館 宮跡展望室

出席者：井原 緑氏、下村 由加里氏、田辺 征夫氏、仲西 範嘉氏、中村 孝氏、
福井 義尚氏、宮城 俊作氏、向山 敦夫氏、森田 秀雄氏

第1回においては、未成熟な情報を公にすることにより、県民等の誤解や憶測を招くおそれがあるため、非公開で開催。

議事（1）委員長選出について

- ・委員の互選により、田辺委員を委員長として選出。

議事（2）検討委員会の運営手法について

- ・「検討委員会運営要領」、「検討委員会傍聴要領」を議決。

議事（3）整備計画について

委員からの主な発言は以下のとおり。

- ・将来的な社会や人の好みの変化、奈良の未来設計による方向性の変化などをどこまで踏まえて計画するかが重要。
- ・公園利用者数の設定について、新型コロナウイルス感染症拡大以前の来園者数をベースに推定すると、開園後の来園者数が過大に出る可能性がある。
- ・空間配置について、施設ゾーン、広場ゾーンなど、ゾーンを完全に分けて考える必要はない。
- ・計画地において、眺めは大きな資源。朱雀門への視認性のほか、大極殿、大和青垣や、南向きの視線の抜けなどを大事にした施設配置の検討が必要。
- ・計画地は空間利用が重要であるため、発掘調査等で分かった成果を活用するにあたっては、その空間を阻害しないよう配慮が必要。
- ・昔から、平城宮跡歴史公園内には便益施設がないという意見がある。
- ・地域で開催されたワークショップの意見（雨よけの施設がない、子供が遊べる場所がない、広い公園の移動が大変、ベンチが少ないなど）をきちんと取り入れていくべき。
- ・広場には、ニーズ調査（遊具、弁当が食べられる場所など）の結果に加えて、近隣の人が利用できるウォーキング・ランニングコースがあっても良い。
- ・冬の時期に訪れていただけるような配慮が必要。
- ・雨天時でも利用できる大屋根は有効。
- ・奈良でも取り入れられる流行を取り入れられると良い。
- ・既設エリア（朱雀門ひろば）との動線確保が課題である。

- 既設エリア（朱雀門ひろば）と計画地の主なターゲット層が違うのであれば、園路がなくなることや景観的な点からも、大宮通りからのアクセスはない方が良い。
- 国営公園とも十分に連携し、相乗効果で利用者数の増加につながるような整備が必要。